

●景観形成基準

(2) 田園集落景観形成地域

届出対象行為の種類	配慮項目	景観形成基準
建築物の新築、増築、改築若しくは移転、外観の変更を伴う修繕若しくは模様替え又は色彩の変更	配置	<ol style="list-style-type: none"> 敷地の許す範囲内で、道路・隣地境界線からできるだけ後退し、沿道及び隣地相互に空間を確保する。 敷地内に大径木若しくは良好な樹林、樹木若しくは河川、水辺等がある場合又は山並みへの良好な眺望が得られる場合には、これらを生かせる配置とする。 建築物はできるだけ目立たないような位置に配置し、周辺の山々の眺望を阻害しないよう努める。
	外観 規模	<ol style="list-style-type: none"> 周辺及び背景となる景観との調和に努める。ただし、周辺の状況並びに市長及び地元住民による景観形成のための組織の意見等により、景観形成上支障がない場合については、この限りでない。 個々の建築物等の規模及び高さは、極力抑え、周辺の自然環境、田園景観等との調和に努める。 周辺の山々の眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模及び建築物等と敷地とのバランスに配慮する。
	形態 意匠	<ol style="list-style-type: none"> 自然と調和した形態及び意匠となるよう工夫する。 屋根の形状を勾配屋根とするなど、周囲の景観との調和に努める。 外壁又は屋上に設ける設備等は、露出しないようにし、できるだけ突出感及び乱雑な感じを与えない意匠とする。 屋外階段、ベランダ等は、建物本体と調和するよう配慮する。
	色彩等	<ol style="list-style-type: none"> 外壁及び屋根は、低彩度で、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の樹林農地及び集落の景観に調和した色調とする。 <ul style="list-style-type: none"> 基調となる色彩は、原則として彩度は2以下とする。ただし、赤系（R）、黄系（Y）又は橙系（YR）の色相で、明度が4以下のものについては、彩度を4以下とする。 使用する色数は、できるだけ少なくなるよう努める。 照明を行う場合は、設置場所の周囲の環境に留意し、過度なものとならないよう留意する。 光源で動きのあるものは、原則として避ける。
	材料	<ol style="list-style-type: none"> 外観及び外構には、自然景観及び周辺景観と違和感のあるような材料をできるだけ避け、地域特有の材料又は天然の材料をできるだけ用いるものとする。 周辺景観と調和し、耐久性及び耐候性に優れた材料を使用する。 鏡面等の反射光の強い素材は、極力用いないよう努める。
	緑化	<ol style="list-style-type: none"> 道路及び隣接地から後退してできる空間並びに敷地の周囲及び内部は、極力緑化に努める。 既存の樹木は、可能な限り保存又は移植をし、修景に生かす。 使用する樹種は、周辺の樹林、緑地等又は道路等の公共空間と調和した地域の風土に合ったものとするよう努める。 建築物が周辺に与える威圧感、圧迫感等を和らげるよう、樹木の高さ及びその配置等に配慮する。 できる限り敷地の20%以上の緑地面積を確保する。
その他	<p>神社、寺院、遺跡等の文化財、地域のシンボルその他の景観資源に近接する場合は、これらに違和感を与えることのないように位置、形態、意匠、色彩及び材料について配慮する。</p>	
工作物の新築、増築、改築若しくは移	垣、柵、塀の類	<ol style="list-style-type: none"> 地域特性を勘案して周囲の景観に配慮する。 生垣又は石材、木材等天然の材料をできるだけ用い、これにより難しい場合は、これに準じたものとする。 できるだけ低くし、形状、意匠及び色彩は、周辺の景観及び建築物本体に調和したものとする。

<p>転、外観の変更を伴う修繕若しくは模様替え又は色彩の変更</p>	<p>電線類、電柱、鉄塔、アンテナの類</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 位置は山岳の景観に配慮し、高さは周囲の樹林を超えないようにする等規模をできるだけ小さくする。 2 電線及びアンテナの類は、できる限り共架に努め、電柱及び鉄塔類の数をできるだけ少なくする。 3 形状及び意匠は、できるだけシンプルなものとする。 4 色彩については、周辺の景観に配慮した色調を用いる。 5 鉄塔及びアンテナの類は、道路等その他公共の場から見えにくいよう植栽等により遮蔽し、目立たないようにする。 6 鉄塔及びアンテナの類は、敷地の許す範囲内で、幹線道路の境界線から5メートル以上後退するものとする。
	<p>煙突、記念塔、金属柱、高架水槽、彫像の類</p>	<p>山岳又は高原、樹林、農地、集落又は家並み等周辺及び背景となる景観を損なわないことを基本として、建築物に準じたものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 位置は、道路及び隣地からできるだけ後退させる。 2 高さは、周囲の樹林を超えないようにする等規模をできるだけ小さくする。 3 形状及び意匠は、建築物に準じて周囲の景観と調和したものとなるよう工夫する。 4 色彩、材料、敷地内の緑化等は、建築物に準じるものとする。
	<p>遊戯施設、製造プラント、貯蔵施設、処理施設の類</p>	
	<p>事業用太陽光発電施設（建築物へ設置するものを除く。）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.太陽電池モジュール（太陽光パネル）の色彩は、黒色若しくは濃紺色又は低明度かつ低彩度の目立たないものを使用する。 2.太陽電池モジュールは、低反射で、模様が目立たないものを使用する。 3.太陽光発電施設等の最上部はできる限り低くし、周囲の景観から突出しないように配慮すること。 4.太陽電池モジュールの勾配は周囲の景観に調和するように配慮すること。 5.太陽電池モジュールのフレームや架台の色彩は、周囲の景観と調和するように配慮し、素材は低反射のものを使用する。 6.パワーコンディショナー、分電盤、フェンスなどの附属設備の色彩は、周囲の景観と調和するように配慮すること。 7.尾根線上、丘陵地又は高台などへの設置は避けること。ただし、設置する場合は、稜線を乱さないように土地の形状変更は最小限にとどめ、周囲への景観に違和感のないように配慮すること。 8.歩行者及び周辺の景観への影響のあるものは、敷地境界及び道路境界からできる限り後退し、植栽などにより修景すること。 9.主要な眺望点や主要な道路から見た場合に、茅ヶ岳・瑞牆山、八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳及び富士山などへの景観を阻害しないように配置の工夫や植栽などにより修景すること。
	<p>土地の形質の変更</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 土地の形質の変更は、必要最小限に抑えるものとする。 2 周辺の地形との調和に配慮するとともに、大きな法面等を生じないよう努める。 3 法面を必要とする場合は、できるだけ緩やかな勾配とし、併せて地域にふさわしい樹木又は草花により緑化する。 4 擁壁は、自然に調和した材料、形態及び意匠となるよう修景に工夫し、併せて緑化に努める。 5 残地に現存する樹林、樹木、河川、水辺等は、極力保全し、活用するよう努める。 6 形質の変更の終了後は、自然の植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、敷地の緑化に努める。
	<p>鉱物の掘採又は土石の類の採取</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 掘採等は、必要最小限に抑えるものとする。 2 掘採等に当たっては、周辺からできるだけ見えないよう、採取の位置及び方法を工夫し、敷地の緑化に努める。 3 掘採等の終了後は、自然植生及び周辺の樹木と調和した樹種により、跡地の復元緑化に努める。

<p>屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 位置は、道路等その他公共の場からできるだけ離すとともに、規模を必要最小限に抑えるものとする。 2 積み上げに当たっては、できるだけ低くし、周辺の景観を損なわないよう、整然と行うものとする。 3 敷地の周辺は、植栽その他自然と調和した遮蔽措置を講ずるよう努める。
<p>木竹の伐採</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 樹木の保全及び育成を基本として、周辺の景観を損なわないよう、目的に応じて必要最小限の伐採とする。 2 既存の高木及び樹姿の優れた樹木は、できるだけ残すとともに、まとまりをもたせて残すよう努める。 3 道路及び隣地と接する樹木は、できるだけ残す。 4 伐採した樹種及び周辺の植生を勘案して代替措置（植栽等）の実施に努める。